

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2021年8月22日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「神のさばきを軽視してはいけません」

—今を誠実に生きよう—

テキスト：第2ペテロの手紙2章4～10節 a

はじめに

- ・大阪では「コロナ・パンデミック」は、今や第5波に入っています。じつに多数の方々が感染し、大切な命が失われました。現在も軽症、中軽症そして重症の方がたがおられます。東京では医療が逼迫し、重症患者のみが病院へ入院し治療を受ける手配となっていると聞いています。
 - ・大阪はまだそこまでは逼迫していませんが、それでも大阪最大の駅である梅田駅やデパートなどでは、本当に多くの人々が出て大混雑しております。緊急事態宣言下といっても、平常とはなんらか変わりない人出であります。いわゆる「コロナ宣言慣れ」現象を起こしているのではないかと、思われます。
 - ・緊急事態宣言がはじめに発令されたときは、みな緊張感を覚えたものであります。しかし、コロナ・パンデミックが第5波の波となり、緊急事態宣言も4度目となり、それが1年半も続きますと、慣れ現象を起こしてしまいます。
 - ・人間とは不思議なものです。はじめは高い緊張感がありますが、時間が経つと慣れてしまい、あまり反応をしなくなります。同じように、はじめはそれほど大きなズレではなくても、次第にそのズレは広がっていきます。それが私たち人間の姿であります。
 - ・サタンがそのことに無関心であるはずはありません。私たちの心が傲慢の罪に捕らわれ、神の御顔を避けて歩み出すその瞬間をサタンは狙っています。心に罪という覆いがかけられると、何が正しく、何が間違っているかが見え難くなります。
 - ・そして私たちの倫理面が汚されていきます。結局、どこから外れるかといえば、私たちの内から神への恐れが失われてゆくところから、なのです。サタンは少しのズレに入り込もうとしていますから、油断禁物です。
- 箴言1章
- 1:7 【主】を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。
- ・私は、本当に神を愛する生活を望んでいるでしょうか。神の国と神の義をまず第一に求めているでしょうか。

- ・ペテロは今日の聖書テキストで、離散したユダヤ人クリスチャンに向かって、人類の歴史から「神のさばき」と「神の救い」について、述べました。

大切なポイント

1. 神のさばきを忘れないこと

2:9 主はこのようにされたのですから、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。 II ペテロ

- ・神は誠実に歩んでいる者を滅びから救い出し、傲慢に生きる者を必ずさばかれます。しかし、そのさばきを直ちに行われるとは限りません。ペテロは、それは終わりの日まで猶予されることもあると述べています。そして、その点を旧約聖書から3つの実例を挙げて確認しようとしています。

1) 罪を犯した御使たち (墮天使)

2:4 神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。

- ・ここに罪を犯した御使たちとありますが、御使いが罪を犯したのです。イザヤ書14章に次のように記されています。

14:12 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。

14:13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。』

14:14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』

14:15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。
- ・これは、天から落とされた墮天使とよばれるものです。墮天使は神に最も近くにあって仕えてきた天的存在です。しかし自分たちの高貴な立場を利用し、傲慢の罪に陥りました。神は彼らをさばき、地獄に投げ入れ、暗闇の中に閉じ込めてしまわれました。
- ・神のさばきは御使いたちにも下されるのです。神に最も近くで、仕えている者たちでさえ例外ではありません。神は公平なるお方、えこひいきのないお方です。一線を越えてしまった者に、神は公平に対処されるお方です。
- ・では、ペテロは神のさばきは墮天使にも下ることを、なぜはじめに挙げたのでしょうか。それは墮落したすべての被造物に対する「さばき」という神の取り扱いを予表する型であるからです。
- ・私たちは欲に捕らわれた墮天使のようになるのではないことを願います。

そこで次のみことばを覚えたいと思います。

1 テモテ 6 章

6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を得る道です。

2) ノアの時代の不敬虔な人々

2:5 また、かつての世界を放置せず、不敬虔な者たちの世界に洪水をもたらし、義を宣べ伝えたノアたち八人を保護されました。

・ノアについてはイエスも言及されました。 ルカ 17 章

17:26 ちょうど、ノアの日が起こったのと同じことが、人の子の日にも起こります。

17:27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていましたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。

・ノアは義を伝えましたが、人々はそれを拒みました。ですから、ノアの時代の人々も、神の救いの真理を拒む人々の神の取り扱いの型であります。

・新約聖書時代、神は福音 (euangelion:ユーアンゲリオン:「良き知らせ」) を、イエス・キリストを通して与えてくださいました。義なる神は、人類が罪に対するさばきから免れる道を開いてくださいました。それはただ、神の一方的な恵であり、あわれみであります。

3) ソドムとゴモラの不道徳な人々

2:6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、不敬虔な者たちに起こることの実例とされました。

2:7 そして、不道徳な者たちの放縦なふるまいによって悩まされていた正しい人、ロトを救い出されました。

・創世記 13 章

13:12 アブラムはカナンの地に住んだ。一方、ロトは低地の町々に住み、ソドムに天幕を移した。

13:13 ところが、ソドムの人々は邪悪で、【主】に対して甚だしく罪深い者たちであった。

創世記 18 章

18:20 【主】は言われた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、彼らの罪はきわめて重い。

・ソドムとゴモラの人々は、性的、道徳的に非常に墮落していました。それは言語に絶するものでした。そのためロトの宣教の声も届きませんでした。彼らの良心は麻痺したほどでした。そこで、神は彼ら良くない思いに引き渡され

ました。 ローマ 1 章

- 1:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、彼らのうちの女たちは自然な関係を自然に反するものに替え、
- 1:27 同じように男たちも、女との自然な関係を捨てて、男同士で情欲に燃えました。男が男と恥ずべきことを行い、その誤りに対する当然の報いをその身に受けています。
- 1:28 また、彼らは神を知ることによって価値を認めなかったため、神は彼らに無価値な思いに引き渡されました。それで彼らは、してはならないことを行っているのです。
- ソドムとゴモラの人々は、つい性的倒錯にのめりこんでいきました。彼らへのさばきは、福音の光も、良心が命じること拒む人々に対する、神の取り扱いを予表するものです。
 - 終末の時代(end time)と言われる今日、世界各地で麻薬や性的倒錯による社会の悪化は、あちこちで報じられています。大変残念なことに、アメリカやヨーロッパでは信仰を言い表した人々の中にも、そのような人々がいることは事実です。
 - 私たちは暗く汚れた社会の中にいます。気がついたらソドムの中に住んでいた、とならないために、どうすれば良いのでしょうか。私たちは、誘惑と危険の中で生きる秘訣を心得ていなければなりません。
 - ① 先ず何よりも、日々神の前で心静めることです。
 - ② 次にみことばを読み黙想することです。
 - ③ そして神に祈り守られて歩むことです。
 - この3つのことを守るものは、悪の誘惑に負けることはありません。なぜなら、全能の主である神がともにいてくださるからです。
 - このように、ペテロは歴史上の3例を挙げて、離散した同胞ユダヤ人クリスチャンたちに、暗い社会で生きる秘訣を説きました。それは現代に通じる真理であります。
 - 神は、ご自身が義であるがために、悪を容認することができません。必ず、悪をさばかれるお方です。 **ガラテヤ人への手紙**

6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。
 - 神の前での悪は、必ずさばかれることを、私たちは忘れてはいけません。ペテロはこのように、神のさばきを忘れてはいけないと述べました。しかし、次に大切なことを述べました。

2. 神に敬虔な人々は救われる

- ・神は不敬虔な人々へのさばきとともに、敬虔に生きる人々への救いも語っておられます。ロトについては次のように述べています。
 - 2:7 そして、不道德な者たちの放縦なふるまいによって悩まされていた正しい人、ロトを救い出されました。
 - 2:8 この正しい人は彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたのです。
- ・ここで、私たちは2点覚えたいと思います。

1) 正しい人ロト

- ・ここでロトが「正しい人」と呼ばれています。しかし、創世記に書かれているロトは、かならずしも「正しい人」とは思えませんでした。彼は信仰の人アブラハムとともに登場します。アブラハムは主を恐れ、主の御心にかなう生き方を求めました。
- ・ところがロトは、いつも人間的な判断によって行動する人物として描かれています。酒に酔うこともありました。アブラハムのように、毅然とした態度をとりませんでした。その彼がここで、どうして「正しい人」、「義人」と呼ばれているのでしょうか。
- ・8節に「この正しい人は彼らの間に住んでいました」とあります。一方、アブラハムは、そこを自分の住み家とはしませんでした。しかし8節の後半には次のように書かれています。
 - 「不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていた」とあります。
 ロトはアブラハムのようにではありませんでしたが、世の中にある罪の現実気づくことはできました、それに、そこにとどまり続けてはならないことも心得ていました。
- ・ソドムの人々の生き方を見て、一線を引くことができました。ですから彼は「日々その正しい心を痛めていた」とあります。きっと彼は自分の力ではどうすることもできなく、葛藤したに違いありません。彼はアブラハムのように毅然とした態度をとることができませでした。
- ・しかし、彼が心を痛めていたこと、その時代の人々が行なっていることは決して良いことではないこと、そこに留まるべきか、脱出すべきかと悩んだこと。その心の痛み、心の悩みこそ、彼が神の民の一員であることの証拠でした。なぜなら、神の民として取り分けられていない人は、そのような良心の痛み、葛藤など覚えなからずです。
- ・そのような意味では、私たちは模範的なアブラハムより、ロトの方に親近感を覚えるかも知れません。私たちも倫理観、道徳観の欠落している時代に生かき

れています。そしてテレビ、ラジオ、You Tube, SNS で流れてくるニュースで本当に心を痛めています。

2) 信仰の試練

- ・少し考えてみましょう。ロトはアブラハムと別れ、自分が選んだ地ソドムとゴモラの地にいました。彼は神の選ばれた民として、その腐敗した世界で生活することに確かに心を痛めていました。しかし、いつも見聞きする中で次第に慣れていったということはないでしょうか。良心が麻痺し、そこにある問題に鈍感になることがあったのではないかと思います。
- ・そのことが、彼の決断を鈍らせたかも知れません。それゆえ神によって、無理やりに手を引かれ、連れ出されなければなりませんでした。
2:9 主はこのようにされたのですから、**敬虔な者たちを誘惑から救い出し、正しくない者たちを処罰し、さばきの日まで閉じ込めておくことを、心得ておられるのです。**
- ・ここの誘惑 (peirasmos:ペイラスモス) という言葉は、試み、試練という意味もあります。誘惑は私たちに罪へと向かわせるものです。試みとは、私たちの信仰を訓練するためにお与えになる特別な訓練のことです。いずれにせよ、神は敬虔な者を救い出されます。
- ・ここで見落としてはいけないことがあります。
それは、ノアもロトも、その試練から救い出されるまで、長い戦いの日々を通らされたことでした。ノアは邪悪な時代から救われるために、巨大な舟の建造を命じられました。ロトも良心が麻痺寸前になるまで、ソドムとゴモラに留まりました。
- ・いかがでしょうか。私たちは速やかな解決を期待します。もし、そのようになれば、感謝なことでもあります。しかし神は遠い時代の先まで見通しておられません。人類全体の歴史を見据えて、人類の将来をも見渡して、今の私たちにかかわりを持たれます。
- ・ですから、私たちが期待するような小手先の解決策をお考えにはなりません。幾重にも重なり合っている問題や課題を、正しく見抜いておられるお方です。そして、今何が必要かを知っておられます。神の救いのみわざは、そのようにして与えられるものです。
- ・ですから、私たちは神の主権に信頼することです。神の時を待ち、今何を求めるべきか、また何のために備えるべきかを考えることです。そして、神は敬虔な者たちを救い出し、不義な者たちをさばかれる、という事実を厳粛に受け止める必要があります。

- ・そして「主の祈り」にありますように、「御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように」と祈り、今を誠実に生きる者とならせていただきますよう。

ま と め

主 題：「神のさばきを軽視してはいけません」

—今を誠実に生きよう—

- ・今朝も、主は私たちにお語りくださいました。ペテロの時代、思いのまま、好き勝手な生き方をしていた人々がいました。道徳的、倫理的に神から離れ、神の心を悲しませてしまう人々がいました。
- ・そこでペテロは、ユダヤ人クリスチャンたちにどのように生きるべきかを伝えました。それは、神はどのようなお方かを覚えることでした。その教えは、現代に生きるキリスト者にも通じるものであります。
 1. 神は悪をさばかれるお方である
 2. 神は神に敬虔に生きる者を救われる
- ・私たちはこの2点を心に覚えて、今週も主とともに歩みましょう。

* God bless you !